

Oracle® Hyperion Capital Asset Planning

Administrator's Guide

リリース 11.1.2.3

Capital Asset Planning Administrator's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2007, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	7
第 1 章 Capital Asset Planning の概要	9
Capital Asset Planning について	9
Capital Asset Planning 機能	9
前提条件	10
ビジネス・モデル	10
事前定義済の次元	11
勘定科目	11
資産クラス	11
資産詳細	11
事前定義済アーティファクト	12
フォーム	12
ビジネス・ルール	12
タスク・リスト	13
メニュー	13
スマート・リスト	13
第 2 章 Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化	19
Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化	19
Performance Management Architect アプリケーション管理の使用	20
Capital Asset Planning アプリケーションの作成	20
既存の Planning アプリケーションへの Capital Asset Planning プラン・タ イプの追加	20
Planning への Capital Asset Planning アプリケーションの配置	21
Planning アプリケーション管理の使用	21
最初の実装タスク	22
アプリケーションの保護	23
情報を Capital Asset Planning にロード	25
Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス	25
第 3 章 資本資産の管理	27
情報	27

プロセス	27
「資本管理」タスク・リストのタスク	28
「資本管理」タスク・リストの表示	28
資産クラスおよび資産詳細の設定について	29
資産クラス次元の設定について	29
資産詳細次元の設定について	29
資本に関する仮定の設定	29
既存資産のインポート	30
資本資産支出の連結	30
既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認	31
資産関連支出の計算	31
第4章 資本支出のプランニング	33
情報	33
プロセス	33
「資本プランニング」タスク・リストのタスク	34
「資本プランニング」タスク・リストの表示	34
資本プランニングを操作する際の考慮事項	34
既存資産の確認	35
既存の主要資産の管理	35
資産の計算	36
資産の減損	36
資産の譲渡	37
資産の除・売却	38
資産の改良	39
無形資産の計算	39
計算済の詳細の確認	40
すべてのリース資産の計算	40
財務諸表への資産の影響の表示	40
既存の副資産の管理	41
資産の詳細の表示	42
新規資産の追加	42
新規資産の追加および調整	42
資産の追加	43
資産の削除	44
資産の調整	45
資産の要請ステータスの変更	45
新規リース資産の追加および調整	46
リース資産の追加	47

リース資産の削除	48
リース資産の計算	49
資産関連支出の計算	49
承認のためのプランの送信	50
第5章 資本資産分析の実行	51
情報	51
プロセス	51
「資本分析」タスク・リストのタスク	51
「資本分析」タスク・リストの表示	52
財務諸表での影響の確認	52
資産の詳細の表示	53
資産概要の表示	53
用語集	55
索引	57

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

Capital Asset Planningの概要

この章の内容

Capital Asset Planning について	9
Capital Asset Planning 機能	9
前提条件	10
ビジネス・モデル	10
事前定義済の次元	11
事前定義済アーティファクト	12

Capital Asset Planning について

Oracle Hyperion Capital Asset Planning は、Web ベースのソリューションであり、資本支出の管理、優先付けおよびプランが使用可能です。

Capital Asset Planning を使用すると、組織の資本支出モデルを作成し、意思決定者および第一線のマネージャが要求、理由、レビューおよび承認プロセスを通じてコミュニケーションをするための効率的な方法を提供できます。

Capital Asset Planning モデルは 12 か月のカレンダーをベースにしており、Capital Asset Planning のデフォルトの計算は複数年をサポートしています。アプリケーションでカスタム期間を使用する場合は、それらをサポートするために時間に関連した式を変更する必要があります。

Capital Asset Planning 機能

- 資本支出プランの作成およびそれらを承認取得のために提出する際の支援を行います。
- 資本支出のタイミングと費用を調整できます
- 各資産クラスに対してグローバル仮定を確立して、計算ドライバを設定します。
- 資産支出に対する最新情報の信頼できるソースを提供します
- コミュニケーションと通知を提供して、スムーズで効率的な要求および承認プロセスを保証します。
- シナリオのシミュレーションを持ち、キャッシュ・フロー、利益および損失への資本支出プランの影響を正確に予測することができます。
- 資産譲渡を含んでおり、部署間をまたいで効果的で効率的な資産利用を助長します。

- 予測およびレポートなど、Oracle Hyperion Planning のすべての機能を提供します
- プランニング・プロセスのカスタマイズが可能であり、グローバル企業のニーズを満たすことができます
- 他のシステムと統合して情報をロードできます

前提条件

Capital Asset Planning を設定および管理する前に、次を理解しておく必要があります。

- Planning (Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。)
- Performance Management Architect アプリケーション管理を使用している場合、Oracle Hyperion EPM Architect 機能(Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。)
- Capital Asset Planning ビジネス・モデルおよび構造(10 ページの「ビジネス・モデル」、11 ページの「事前定義済の次元」および12 ページの「事前定義済アーティファクト」を参照してください。)

ビジネス・モデル

すべての会社は将来を見据えたプランを作成して将来の準備をします。競争力のある市場メリットに影響を及ぼす戦略に対して、会社のリソース-人材と資金-を調整します。協調プランニングにより、部署間の調整を行い、組織能力を増すのに必要な資本支出を配分します。

Capital Asset Planning により、予算編成およびプランニングの間、資本支出を管理して優先順位をつけます。Capital Asset Planning を使い、既存の資産を管理して資産購入などの資本支出のプランを行うことができます。次も行えます:

- ドライバ・ベースの計算を行い、利益の変化および追加における影響、キャッシュ・フローおよび資金調達を評価します。
- 適切な理由とともに、資本支出プランを要求して承認します。

Capital Asset Planning は、譲渡、関連支出、改良、債務超過額、除・売却、交換および財務的な影響のプランニングおよび財務諸表への影響の分析などのタスクを支援します。また、企業プランナがプランを集計し、資本支出のレポートを準備して、変動する状況に対応するためにプランを繰り返すことを支援します。

事前定義済の次元

サブトピック

- [勘定科目](#)
- [資産クラス](#)
- [資産詳細](#)

Planning で用意されている次元(複数通貨のアプリケーションのエンティティ、シナリオ、バージョン、期間、年および通貨)に加えて、Capital Asset Planning では、次元(資産クラス、資産詳細)が提供されます。

勘定科目

Capital Asset Planning は、スマート・リスト、テキスト勘定科目、日付勘定科目および保存済の仮定など様々なタイプの勘定科目を作成し、計算用のドライバを格納します。会社の特定の勘定科目を勘定科目次元に移入でき、また、必要に応じて事前定義済勘定科目をカスタマイズできます。次に勘定科目を使用して、プラン作成、予測、実際の結果とプランの比較を行います。

勘定科目次元には、次を行うメンバーが含まれます:

- 計算の実行
- 計算結果の格納
- プランニング・プロセスで収集される資産(資産 ID、資産の値、資産能力)に関する情報を提供します。

注: Capital Asset Planning に用意されている勘定科目を変更する場合、アプリケーションが期待どおりに動作するように対応するビジネス・ルール、メンバー式およびフォームも変更する必要があります。また、勘定科目およびビジネス・ルールをカスタマイズし、Capital Asset Planning を後でアップグレードした場合、変更が失われるため再度カスタマイズする必要があります。

資産クラス

資産クラス次元は、企業が所有する資産のカテゴリを詳述します。資産クラスは、有形資産(備品および設備、機械および装置、コンピュータなど)および無形資産(リース資産改善費、ソフトウェア権利、営業権など)に分けられます。これらのクラスは、通常、財務諸表に適切な上位レベルの明細で、資産レベルにドリル・ダウンしません。

[29 ページの「資産クラスおよび資産詳細の設定について」](#)も参照してください。

資産詳細

「資産詳細」次元は、要件に応じて個々の資産または資産のグループとして資産詳細の追跡に使用されます。資産は、新規所有、既存所有、新規リースまたは既存リースになります。

新規資産のプランニングをサポートするために、開始点として、Capital Asset Planning では、要請を入力するための次のライン・アイテムが提供されます:

- 新規リース資産のプランニングのための 30 ライン・アイテム
- 新規所有資産のプランニングのための 200 ライン・アイテム

管理者は、実装要件に基づいてライン・アイテムを追加できます。

事前定義済アーティファクト

サブトピック

- [フォーム](#)
- [ビジネス・ルール](#)
- [タスク・リスト](#)
- [メニュー](#)
- [スマート・リスト](#)

事前定義済の次元に加えて、Capital Asset Planning は、事前定義済の一連のアーティファクトを提供しており、これらが連携することで資本資産支出のプラン作成を可能にします。

フォーム

Capital Asset Planning は、資産データのプランおよび分析に使用する事前定義済フォームを提供します。タスク・リストのタスクの実行時にフォームを開くことも、「フォーム・フォルダ」の下のフォームを選択して開くこともできます。

多くのタスクでマスター詳細フォームが採用されていますが、これは上部のフォームに詳細な情報、下部のフォームにサマリー情報をそれぞれ表示する複合フォームです。

事前定義済のフォームを変更する場合、変更をビジネス・ロジック(ビジネス・ルール、メンバー式およびアウトライン構造)と同期します。ビジネス・ロジックを変更するときは、必ずフォームを確認してください。

ビジネス・ルール

Capital Asset Planning のフォームでは、多くのショートカット・メニュー・オプションによってビジネス・ルールが起動され、それにより、データの選択、変更の適用、および支出の計算に使用する実行時プロンプト・ウィンドウが表示されます。Capital Asset Planning を含む Planning アプリケーションは、ビジネス・ルールの設計および管理のために、Oracle Hyperion Calculation Manager を使用します。事前定義済のビジネス・ルールを使用すると、次のタスクを実行できます:

- 支出の計算
- 支出の分析

タスク・リスト

Capital Asset Planning には、確実に完全なデータ収集を行うためにユーザーがアプリケーション内を移動するのに役立つタスク・リストがあります。タスク・リストは、管理ユーザーおよびプランナに合わせて設計されています。

Capital Asset Planning のタスク・リストを変更して、独自のタスクを追加できます。たとえば、データの確認、データの入力またはビジネス・ルールの実行に関する指示を含むタスクを追加できます。タスク・リストを表示および変更できるユーザーを設定することもできます。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 9 章のタスク・リストの管理に関する項を参照してください。

注： タスク・リストに割り当てられるということは、ユーザーがタスク・リスト内のタスクにアクセスして実行できることを意味します。他のユーザーにタスクを割り当てることはできません。

Capital Asset Planning のタスク・リストは、次のカテゴリに分類されます。

- 「資本管理」 - グローバル仮定の設定、資本支出の計算および連結、資産関連支出(税、保険、修理およびメンテナンス)の計算。第 3 章「[資本資産の管理](#)」を参照してください
- 「資本プランニング」 - 資産の確認、更新、譲渡、追加、除・売却、エンティティの新規資産の要求など、資本資産の管理。第 4 章「[資本支出のプランニング](#)」を参照してください。
- 「資本分析」 - 損益計算書の資本支出の影響の表示、および試算の支出詳細の表示。第 5 章「[資本資産分析の実行](#)」を参照してください。

メニュー

Capital Asset Planning には、フォームで計算を制御するショートカット・メニューがあります。ショートカット・メニューを使用して別のフォームを表示するか、またはビジネス・ルールを起動して計算を実行します。表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

ビジネス・ルールとフォームを追加または変更する場合は、既存のメニューを更新するか、メニューを作成して、変更をサポートします。たとえば、メニューで参照されているビジネス・ルールを削除する場合は、ビジネス・ルールをメニューから削除します。計算に影響せずにショートカット・メニューを削除できます。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の第 12 章のメニューの操作に関する項を参照してください。

スマート・リスト

スマート・リストは、資産の管理、およびフォームを使用した資本資産予算の構築に使用される次元メンバーにリンクされています。たとえば、AssetPriority スマート・リストは、低、中および高という値が含まれます。スマート・リストは、計算を実行するビジネス・ルールにも使用されます。Oracle Hyperion Planning

Administrator's Guide または Oracle Hyperion Planning User's Guide を参照してください。

Capital Asset Planning では、次のスマート・リストが提供されます。

表 1 事前定義済のスマート・リスト

スマート・リスト	説明
AmortizationMethod	資産クラスへのグローバル仮定の設定中に選択します。このスマート・リストは、計算で利用されます。 エントリ: <ul style="list-style-type: none">● FiniteLivedEven● FiniteLivedEvenEntered
ApprovalStatus	資産の承認プロセスで使用されます。 エントリ: <ul style="list-style-type: none">● 新規● アクティブ● 承認済● 未承認● 保留● クローズ済
AssetPriority	資産の優先順位付けに使用します。 エントリ: <ul style="list-style-type: none">● 高● 中● 低
AssetStatus	多くの計算は、資産ステータスに関連付けられています。 エントリ: <ul style="list-style-type: none">● 新規● アクティブ● 除・売却済● 売却● 譲渡済● UnderConstruction● 完了● 削除
AssetUOM	資産の単位。必要に応じて、資産に値を追加できます。 エントリ: <ul style="list-style-type: none">● 番号● 各● ペア● Kg

スマート・リスト	説明
CapacityUOM	<p>資産能力の単位。必要に応じて値を追加できます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時間 ● SquareFeet ● 各
CapexRecog	<p>資産が取得されているかどうかを示します。</p> <p>エントリ: AssetAcquired</p>
CashFlowIncidence	<p>キャッシュ・フローの影響および資産購入の配分を決定します。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MonthsPrior2 ● MonthsPrior1 ● SameMonth ● MonthsCredit1 ● MonthsCredit2 ● MonthsCredit3 ● MonthsCredit4 ● ずらして配置
DelayReasons	<p>資産譲渡の遅延を示します。</p> <p>エントリ: TransferIn</p>
DeprConvention	<p>減価償却または償却の計算に使用します。たとえば、中間期間は耐用年数の最初の月と最後の月の期間を意味します。資産が月の中旬にサービスに配置されるとすると、減価償却可能な金額は通常の月の値の 50%になります。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ProrateBegPer ● ProrateActDate ● MidPeriod
DeprMethod	<p>資産の減価償却のメソッドを示します。このスマート・リストは、多数の計算で利用されます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NoDepr ● SLN ● SYD ● DBYear ● DBPeriod

スマート・リスト	説明
EndReasons	<p>このスマート・リストは、資産の除・売却または譲渡に関連する多くの計算で利用されます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 転出 ● 除・売却 ● 売却
ImpairmentOptions	<p>無形資産の減損方法を示します。36 ページの「資産の減損」を参照してください。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 支出 ● 資産計上済 ● PartiallyCapitalized
LeaseTypes	<p>リース資産のタイプを示します。このスマート・リストは、計算で利用されます。47 ページの「リース資産の追加」を参照してください。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● OperatingLease ● CapitalizedLease
OwnershipAfterLeaseTerm	<p>リース期間終了時の資産の所有者を設定します。このスマート・リストは、計算で利用されます。47 ページの「リース資産の追加」を参照してください。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 賃借人 ● 賃貸人
PaymentFrequency	<p>リース資産の支払い頻度を設定します。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年次 ● 半期ごと ● 四半期ごと ● 月次
PaymentTiming	<p>リース資産に対する支払いのタイミングを示します。このスマート・リストは、計算で利用されます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BeginningofPeriod ● EndofPeriod
PhysicalLocation	<p>資産が必要な場所を示します。必要に応じて値を追加できます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Location1 ● Location2 ● Location3

スマート・リスト	説明
PurchReason	<p>新しい資産を購入した理由を示します。必要に応じて値を追加できます。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 置換 ● アップグレード ● NewEmployee ● 環境 ● Others1 ● Others2
RetireOptions	<p>資産が売却または償却されたかどうかを示します。38 ページの「資産の除・売却」を参照してください。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 売却 ● 償却
TangibleFlag	<p>資産が有形かどうかを設定します。11 ページの「資産クラス」を参照してください。</p> <p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有形資産 ● 無形資産
YesNo	<p>エントリ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いいえ ● はい

2

Capital Asset Planningアプリケーションの作成および初期化

この章の内容

Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化.....	19
最初の実装タスク	22
アプリケーションの保護.....	23
情報を Capital Asset Planning にロード.....	25
Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス.....	25

Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化

サブトピック

- [Performance Management Architect アプリケーション管理の使用方法](#)
- [Planning アプリケーション管理の使用](#)

この項では、Performance Management Architect アプリケーション管理または Planning アプリケーション管理を使用した新規 Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化の方法を説明します。

注： Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting では Capital Asset Planning がサポートされないため、両方のモジュールを使用する場合は、各アプリケーションを個別に設定する必要があります。

次のことを事前定義した Capital Asset Planning ロードを初期化:

- 次元とメンバー
- フォーム
- スマート・リスト
- メンバーの式
- ビジネス・ルール
- メニュー
- タスク・リスト

Capital Asset Planning を初期化する前に:

- 事前定義済アーティファクトを確認して、どのアーティファクトをカスタマイズする必要があるのかを特定してください。モデルをよく理解してアプリケーションをプランすることで、プランナが容易に Capital Asset Planning を使用できます。(11 ページの「事前定義済の次元」および 12 ページの「事前定義済アーティファクト」を参照してください。)
- 次元アウトラインを更新して、Capital Asset Planning メンバー名およびその他のアプリケーションのメンバー名の差を明らかにします。

注： Capital Asset Planning および Oracle Hyperion Workforce Planning は現在、同じ事前定義済エンティティ・メタデータを使用します。ただしエンティティ・メンバーは、アプリケーションを初期化した後に変更できます。

- ▶ 「アプリケーション」、「管理」、「管理アプリケーション」の順に選択して、アプリケーションを初期化します。

Performance Management Architect アプリケーション管理の使用方法

Performance Management Architect アプリケーション管理を使用して、Capital Asset Planning アプリケーションを作成するには、この項の手順に従います。

Capital Asset Planning アプリケーションの作成

Capital Asset Planning プラン・タイプを既存の Planning アプリケーションに追加するには、次の項へスキップします。

- ▶ Capital Asset Planning アプリケーションを作成するには:

- 1 手順については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。

注： Performance Management Architect の「アプリケーション・ウィザード」の最初の画面で、デフォルト次元として「年」と「期間」を選択する必要があります。

- 2 「プラン・タイプ」で、「CapEx」を選択します。

既存の Planning アプリケーションへの Capital Asset Planning プラン・タイプの追加

既存の Planning アプリケーションがある場合は、次の手順に従って、Capital Asset Planning プラン・タイプを既存の Planning アプリケーションに追加します。

- ▶ Capital Asset Planning プラン・タイプを Planning アプリケーションに追加するには:
 - 1 Performance Management Architect 内で、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
 - 2 「アプリケーション・ライブラリ」で、Capital Asset Planning プラン・タイプを追加するアプリケーションを右クリックして、「初期化」を選択し、次に「Capital Asset」を選択します。
 - 3 初期化を確認するには、「はい」をクリックします。

Planning への Capital Asset Planning アプリケーションの配置

Capital Asset Planning アプリケーションを作成したら、すぐに検証して Planning に配置します。配置プロセスにより、Planning アプリケーションが自動的に作成されます。

アプリケーションが正常に初期化されない場合、検証が失敗し、エラー・メッセージが表示されます。エラーを修正してアプリケーションを再配置します。Capital Asset Planning アプリケーションは、「Capex」がプラン・タイプとして選択されているアプリケーションを正常に配置した場合に初期化されます。

Capital Asset Planning アプリケーションを Planning に再配置する必要がある場合、手順については Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide の検証および配置に関する項を参照してください。

Planning アプリケーション管理の使用

Capital Asset Planning アプリケーションを作成し、Planning アプリケーション管理を使用するには、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。アプリケーションの作成時に「アプリケーション・ウィザード」を使用する場合、Capital Asset Planning (「Capex」) プラン・タイプを選択します。

アプリケーションを作成した後、または既存の Planning アプリケーションにプラン・タイプとして「Capex」を追加した後、それを初期化する必要があります。

- ▶ Planning アプリケーション管理用に Capital Asset Planning を初期化するには:
 - 1 Planning を起動してログオンします。
 - 2 Planning で、「管理」、「アプリケーション」、「管理アプリケーション」の順に選択します。
 - 3 アイコン「モジュールを初期化するには、現在ログインしているアプリケーションを選択します」をクリックします。
 - 4 確認のダイアログ・ボックスで、クリックします。
 - 5 アプリケーションをリフレッシュします。

最初の実装タスク

組織の Capital Asset Planning の設定と初期化を担当するユーザーは、次のタスクを実行してアプリケーションの定義および準備を行います。

▶ Capital Asset Planning アプリケーションを実装するには:

1 Capital Asset Planning をインストールし構成します。

Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

2 Capital Asset Planning アプリケーションを作成し初期化します。

19 ページの「Capital Asset Planning アプリケーションの作成および初期化」を参照してください。

3 組織のエンティティに対応するメンバーを含むエンティティ次元をロードします。

25 ページの「情報を Capital Asset Planning にロード」を参照してください。

4 組織で扱われる資産クラスとともに資産クラス次元をロードします。

注: 資産クラス次元に一部の事前定義済のメンバーが含まれています。

5 **オプション:** 資産詳細次元を主要な既存資産とともに組織にロードします。

注: すべての資産をアプリケーションにロードする必要はありません。Capital Asset Planning では、同様な資産をまとめることができます。たとえば、組織が 1,000 台のラップトップを使用している場合、資産詳細次元に 1,000 のメンバーを追加する必要はありません。ラップトップ・メンバーを資産詳細次元に 1 つのみ追加します。この資産に対応するデータをロード中に、資産単位を 1,000 として指定します。これにより、すべての計算は正しく処理され、アプリケーションを拡張しやすくなります。

29 ページの「資産クラスおよび資産詳細の設定について」も参照してください。

6 シナリオとバージョンの既存メンバーを確認し、必要に応じてメンバーを追加または変更します。

7 アプリケーションを Oracle Essbase と同期するには、アプリケーションをリフレッシュします。

8 ロードされたデータを確認します。

9 事前定義済の Capital Asset Planning フォームで使用される代替変数に正しい値を設定します。

表 2 定義済代替変数

名前	説明
LastYr	前年(FY12 など)に設定します。前年が年次元に存在することを確認してください。

名前	説明
CurYr	現在の年に設定します。たとえば、現在の年が 2013 年である場合、この変数を FY13 と設定します。
NextYear	次の年(FY14 など)に設定します。
Yr3	NextYear の次の年(FY15 など)に設定します。
Yr4	Yr3 の次の年(FY16 など)に設定します。
ThisMonth	現在の月に設定します。
CurScenario	現在のシナリオに設定します。
CurVersion	作業バージョン・メンバーに設定します。
ActVersion	最終バージョン・メンバーに設定します。
ForVersion	作業バージョン・メンバーに設定します。
PlanVersion	最終バージョン・メンバーに設定します。
Thisyear	現在の年に設定します。

10 グローバル仮定のデフォルト値を指定します。

29 ページの「[資本に関する仮定の設定](#)」を参照してください。

11 すべてのユーザーがこれらのユーザー変数を設定していることを確認します。

- エンティティ・ビュー - ユーザーがアクセスできるエンティティに設定します。
- シナリオ・ビュー - ユーザーがアクセスできるシナリオに設定します。
- レポートの通貨ビュー - 複数通貨アプリケーションの場合のみ設定します。
- バージョン・ビュー - ユーザーがアクセスできるバージョンに設定します。
-
-

注： Capital Asset Planning のフォームには、操作しやすくするために、ユーザー変数が含まれています。これらのユーザー変数を正しく設定しないと、フォームを開くことができません。

12 ユーザーおよびアプリケーション・アーティファクトのアクセス権を設定します。

23 ページの「[アプリケーションの保護](#)」を参照してください。

アプリケーションの保護

セキュリティは、Oracle Hyperion Shared Services でユーザーに割り当てられた役割に基づき(Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照)、Planning でユーザーまたはグループ(グループは同

様のアクセス権を持ったユーザー・セット)に付与されたアクセス権によって決まります。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

デフォルトでは、ユーザーは、アクセス権が付与されたアーティファクト(フォーム、タスク・リストおよびメンバーなど)のみを開くことができます。次のガイドラインを使用し、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide のアクセス権の設定に関する項およびメンバーへのアクセス権の割当てに関する項の記載に従ってアクセス権を割り当てます。

次のようなセキュア・アーティファクトがあります:

- 次元およびメンバー - プランナにメンバーへのアクセス権を付与すると、プランナはメンバーのデータにもアクセスできます。特定の情報は機密情報です。給与情報を表示およびレポート作成で非表示にするには、ユーザーまたはグループのメンバーまたはその親へのアクセス権を拒否します(アクセス・タイプ「なし」を割り当てます)。また、特定のフォームへのアクセス権を禁止することによって、情報を隠すこともできます。

- エンティティ次元:

プランナが自身の部署エンティティに関する情報のみを表示、変更できるようアクセス権を付与します。これにより、ユーザーは、自分の部署または費用センター固有の資産情報のみを表示および変更できます。同様に、費用センターまたは部署のマネージャおよびプランナのみ、費用センターまたは部署の一般会計エンティティへのアクセス権を付与します。

エンティティなしのメンバー・レベルで設定されたグローバル仮定の表示アクセス権を設定します。

- 資産クラス次元:

資産プランニングを実行するユーザーに、次元レベルのアクセス権を適用します。

- 勘定科目次元:

プラン・タイプ(Capex)別に事前定義済の勘定科目に対するアクセス権をユーザーに付与します。

プランニング・プロセスに対して一般会計の勘定科目を適切に保護します。

- シナリオ次元およびバージョン次元:

ユーザーに、シナリオへのアクセス権を付与します。たとえば、プランおよび予測シナリオへの書込みアクセス権を付与し、実績への読取りアクセス権を付与します。

ユーザーにバージョンへのアクセス権を付与します。たとえば、最終バージョンへの表示アクセス権を割り当て、作業バージョンまたは仮定バージョンへの書込みアクセス権を設定します。

バージョンに対する権限はシナリオに依存しないため、最終バージョンの表示アクセス権によって、すべてのシナリオの最終バージョン・データへの書込みアクセスを防ぎます。

プランニング・サイクル中に、管理者は、データの組合せの変更を防止するために、シナリオおよびバージョンへのアクセス権を変更する必要がある場合があります。

- フォーム - ユーザーとの関連性に基づいて、フォームへの適切なアクセス権を割り当てます。たとえば、資産マネージャにのみ資本管理フォーム・フォルダのフォームへのアクセス権を付与できます。フォルダへのアクセス権をユーザーに付与すると、その子フォルダおよびフォームをすべて表示できます。タスクを分離して、セキュリティの設定を簡略化するために、フォルダは管理、プランニングおよび分析別に編成されます。
- タスク・リスト - ユーザーとの関連性に基づいて、タスク・リストへの適切なアクセス権を割り当てます。たとえば、プランナに「資本分析」タスク・リストへのアクセスを許可しますが、「資本管理」タスク・リストへのアクセスを許可しません。
- ビジネス・ルール - ビジネス・ルールにアクセス権を割り当て、ユーザーが自分のタスクに関連するビジネス・ルールにアクセスできるようにします。
- プランニング・ユニット階層 - 費用センター所有者または確認者にのみアクセス権を付与します。

情報を Capital Asset Planning にロード

エンタープライズ・システムから情報(エンティティ構造および資産クラスなど)をロードする場合があります。例:

- Performance Management Architect アプリケーション管理を使用する場合、フラット・ファイルを使用して情報をロードします。(Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。)
- Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の記載に従って、アウトライン・ロード・ユーティリティを使用します。

次も行えます:

- 手動で情報を Capital Asset Planning に入力します。
- Oracle Essbase Administration Services を介して、データ(メタデータではありません)をロードします。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

注意 Capital Asset Planning の初期化によって作成された次元のデフォルト順序を変更すると、ビジネス・ルールが正しく動作しなくなり、ビジネス・ルール・ロジックへの変更が求められる場合があります。

Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace 環境で、Capital Asset Planning を使用して作業をします。デフォルトの EPM Workspace URL は、<http://webサーバー:ポート/workspace/>で、ここにおいて webサーバーは Web サーバー・マシン・ホスト名であり、ポートは Web サーバー・リスニング・ポートです。EPM Workspace のインストールおよび構成の詳細は、Oracle Enterprise

Performance Management System Installation and Configuration Guide および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

▶ EPM Workspace にログオンして、Performance Management Architect(Performance Management Architect アプリケーション管理用)、Planning および Capital Asset Planning にアクセスするには:

- 1 Web サーバーが開始され、Web アプリケーション・サーバーがサービス・パネルで実行中であることを確認します。
- 2 ブラウザで、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の「ログオン」ページの URL を入力します。
- 3 システムにユーザー名とパスワードを入力します。
- 4 「ログオン」をクリックします。
- 5 **Performance Management Architect アプリケーション管理のために Oracle Hyperion EPM Architect にアクセスするには、「ナビゲート」メニューからオプションを選択します。**

たとえば、「ナビゲート」、「管理」を順に選択し、それから「次元ライブラリ」または「アプリケーション・ライブラリ」を選択します。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。

- 6 **Planning アプリケーション管理を使用するアプリケーションの場合:** 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「プランニング」の順に選択し、アプリケーションを選択します。

3

資本資産の管理

この章の内容

情報	27
プロセス	27
「資本管理」タスク・リストのタスク	28
「資本管理」タスク・リストの表示	28
資産クラスおよび資産詳細の設定について	29
資本に関する仮定の設定	29
既存資産のインポート	30
資本資産支出の連結	30
既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認	31
資産関連支出の計算	31

情報

資本管理では、次のようなタスクを使用して、資本資産の計画および支出の基盤を準備できます。

- 資産管理システムから Capital Asset Planning への資産のロード
- ロード済減価償却費、償却、および費用センターへの資産割当ての確認
- 各資産クラスに対するグローバル仮定の確立および計算促進要因の設定
- グローバル・レートへの例外の場合、資産レベルでの、修復、メンテナンス、税金および保険などの関連資産支出の更新
- 資本支出を計算および連結するためのビジネス・ルールの起動

プロセス

資本資産の管理は、減価償却方法、資産の耐用年数、減価償却換算、およびその他の主要な仮定など、資本資産の会社仮定を設定することから開始します。資産クラスおよび資産詳細の次元を更新し、アプリケーションをリフレッシュした後で、資産関連支出の計算を実行して、最新の資産関連支出のプランまたは予測を連結できます。

タスク・リストでは、指示に従って、資本支出を要求、正当化、確認、および承認します。


注： 財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に、既存の資産クラスおよび資産詳細次元およびデータを更新することをお勧めします。2つの次元を更新し、アプリケーションをリフレッシュした後で、資産関連支出の計算を実行して、プランまたは予測の最新の資産関連支出を連結できます。

「資本管理」タスク・リストのタスク

1. 資本に関する仮定を設定します。
29 ページの「[資本に関する仮定の設定](#)」を参照してください。
2. 既存資産をインポートします。
30 ページの「[既存資産のインポート](#)」を参照してください。
3. ロールアップ・ビジネス・ルールを実行して、資産支出を連結します。
30 ページの「[資本資産支出の連結](#)」を参照してください。
4. 既存資産に関するロード済減価償却および償却を確認します。
31 ページの「[既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認](#)」を参照してください。
5. 資産関連支出を計算します。
31 ページの「[資産関連支出の計算](#)」を参照してください。

「資本管理」タスク・リストの表示

▶ 「資本管理」タスク・リストを表示するには:

- 1 **Capital Asset Planning** を起動します。
25 ページの「[Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。
- 2 左側のパネルで、「自分のタスク・リスト」を展開します。
- 3 「資本管理」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを選択するには、「アクション」列の下のタスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

資産クラスおよび資産詳細の設定について

サブトピック

- [資産クラス次元の設定について](#)
- [資産詳細次元の設定について](#)

資産クラス次元の設定について

資産クラス次元は、企業が所有する資産の異なるカテゴリを詳述します。資産クラスは、有形資産(備品および設備、機械および装置、コンピュータなど)および無形資産(リース資産改善費、ソフトウェア権利、営業権など)に分けられます。

注： Capital Asset Planning を使用して財務計画(プランまたは予測のいずれか)を準備する前に、既存の資産クラスおよび資産詳細次元およびデータを更新することをお勧めします。

資産詳細次元の設定について

Capital Asset Planning では、詳細な資産プランニングを実行できます。プロセスには、Capital Asset Planning への資産のロードがあります。また、耐用年数、使用開始日、能力、および費用など、資産プロパティの勘定科目メンバーもアプリケーションにロードする必要があります。[22 ページの「最初の実装タスク」](#)を参照してください。

資本に関する仮定の設定

「資本に関する仮定の設定」タスクによって、資産情報を処理できます。各資産クラス(たとえば、建物または機械)またはすべての有形資産または無形資産のグローバル仮定を確立することにより促進要因を設定できます。エンティティ・レベルまたは「エンティティなし」(グローバル)レベルで、次のデフォルトの仮定を設定できます:

- 資産の耐用年数
- 減価償却方法
- 減価償却換算
- 償却方法
- 税金
- 保険支出
- 修復およびメンテナンス費用
- キャッシュ・フロー発生。これはキャッシュ・フローの影響および資産購入の配賦を求めます。
- 資産要求に対する資金調達オプション
- キャッシュ・フローおよびの資金調達のスタaggerド計算のスタaggerド値

仮定がエンティティ・レベルで設定されていない場合、グローバル仮定が計算で使用されます。

▶ 資本に関する仮定を設定するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「資本に関する仮定の設定」を選択します。
28 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「グローバル資本仮定」複合フォームに入力します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。事前定義済のスマート・リストの説明は、13 ページの「[スマート・リスト](#)」を参照してください。

既存資産のインポート

資本プランニングを開始するには、通常、企業のソース固定資産システムから主要資産をロードします。管理者は、ソース・システムからアプリケーションのメタデータおよびデータを定期的に更新できます。

詳細は、25 ページの「[情報を Capital Asset Planning にロード](#)」を参照してください。

注意:

- 通常、将来の期間のための資産の減価償却および償却は、ソース・システム(固定資産元帳など)で計算されるため、将来の期間のデータをソース・システムからロードする必要があります。その後、減価償却および償却における購入および除・売却の影響を正確に反映するために、ソース・システムからこのデータを定期的にリフレッシュします。
- 新しく買収取得された資産を反映し、除・売却済の資産を削除するために、マネージャは、資産詳細次元を定期的に維持します。
- すべての資産を固定資産管理システムから Capital Asset Planning へロードしないことをお勧めします。使用される資産のみをロードします。
- 資本資産情報の更新後、アプリケーションをリフレッシュして、アプリケーションを Oracle Essbase と同期します。手順については、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

資本資産支出の連結

資産支出を確認する前に、資産階層のデータを連結するビジネス・ルールを起動します。

▶ 資本資産支出を連結するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「ロールアップ・ルールの実行」を選択します。
28 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「起動」をクリックして、RollupCapexCube ビジネス・ルールを起動します。
実行時プロンプトの定義は、[用語集](#)を参照してください。

ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

既存資産に関するロード済減価償却および償却の確認

資本資産支出をロードおよび連結した後で、マネージャは各期間およびエンティティの資産を確認します。「ロード済減価償却および償却の確認」タスクを使用すると、既存の有形資産および無形資産の期間別の減価償却および償却の金額を表示および更新できます。

▶ ロード済減価償却および償却を確認するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「ロード済原価償却および償却の確認」を選択します。

28 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「9.10 ロード済減価償却および償却の確認」フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

資産関連支出の計算

「資産関連支出の計算」タスクでは、資産マネージャは、資産と資産クラスの組合せに対してエンティティ・レベルで定義される仮定に基づいて、資産関連支出(税金、保険、修復およびメンテナンス)を計算できます。税金、保険、修復およびメンテナンス費用は、資産価値のパーセンテージとして入力されます。レートは、年次で定義されます。これらの関連支出の支出合計を表示するには、「資産関連支出の計算」タスクから「資産関連支出の計算」ビジネス・ルールを起動します。

▶ 資産関連支出を計算するには:

- 1 「資本管理」タスク・リストの下で、「資産関連支出の計算」を選択します。

28 ページの「[「資本管理」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 資産関連支出の計算ビジネス・ルールを起動するには、「起動」をクリックします。

実行時プロンプトの定義は、[用語集](#)を参照してください。

注: ランタイム・プロンプト値ファイルの作成に関する情報を使用できるように、CalcMgrCmdLineLauncher.cmd ユーティリティを使用して、Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide を参照してください。

4

資本支出のプランニング

この章の内容

情報	33
プロセス	33
「資本プランニング」タスク・リストのタスク	34
「資本プランニング」タスク・リストの表示	34
資本プランニングを操作する際の考慮事項	34
既存資産の確認	35
新規資産の追加	42
資産関連支出の計算	49
承認のためのプランの送信	50

情報

Capital Asset Planning は、資本支出の管理、優先付けおよびプランに役立ちます。プランナはエンティティ全体における資産の要件の包括的なビューを取得し、資本購入の決定を行うことができます。

新規有形資産または無形資産費用をプランし、財務諸表(損益計算書、キャッシュ・フローおよび貸借対照表)に与える影響を確認できます。また、支出を確認して資本支出のタイミングおよび費用を調整できます。さらに、譲渡、除・売却および減損など、資産を管理できます。

プロセス

資産マネージャとして、資本資産を管理する次のタスクを実行します:


- エンティティの既存の主要および副資産を確認し、必要に応じて、これらに対して変更を加えます。たとえば、資産の所有権を他の組織に譲渡したり、これを除・売却します。
- 資産関連支出を確認および更新します。たとえば、クレーンの保険料率を下げます。
- 新規資産を追加および調整します。
- 資産関連支出を計算します。
- 承認のためにプランを送信します。

「資本プランニング」タスク・リストのタスク

1. 主要資産および副資産などの既存資産を確認します。
35 ページの「既存資産の確認」を参照してください。
2. 新規資産またはリース資産を追加および調整します。
42 ページの「新規資産の追加」を参照してください。
3. 資産関連支出を計算します。
49 ページの「資産関連支出の計算」を参照してください。
4. 承認のためにプランを送信します。
50 ページの「承認のためのプランの送信」を参照してください。

「資本プランニング」タスク・リストの表示

▶ 「資本プランニング」タスク・リストを表示するには:

- 1 **Capital Asset Planning** を起動します。
25 ページの「Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス」を参照してください。
- 2 左側のパネルで、「自分のタスク・リスト」を展開します。
- 3 「資本プランニング」を展開します。
- 4 タスク・リストからタスクを起動するには、「アクション」列の下のタスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」をクリックします。

資本プランニングを操作する際の考慮事項

資本プランニングを操作する際は、次の点を考慮します:

- アプリケーション期間範囲前の既存の資産の減価償却計算は、SLN および SYD 減価償却方法のみサポートされています。DB 年または DB 期間減価償却法はサポートされていません。たとえば、アプリケーションの期間範囲が 2004 年 1 月から 2015 年 12 月までで、資産の使用開始日が 2000 年 1 月 1 日の場合、減価償却計算は SLN および SYD 法のみサポートされています。
- 残存価額をゼロに設定した場合、DB 年または DB 期間減価償却法では目的の結果を得ることができない可能性があります。正しい減価償却計算を得るために、DB 年減価償却法を使うとき、Oracle は残存価額の設定を少なくとも 1% の基本費用に設定することを推奨します。
- Capital Asset Planning アプリケーションは、12 か月カレンダーに基づきます。週次モデルではありません。

- 複数通貨のアプリケーションに対して、減価償却計算は計算するエンティティ・メンバーの基本通貨を使用します。通貨の上書きオプションが有効な場合、減価償却計算は入力された値の通貨を使用します。

既存資産の確認

サブトピック

- [既存の主要資産の管理](#)
- [既存の副資産の管理](#)
- [資産の詳細の表示](#)

既存の主要資産の管理

エンティティの資産を確認したり、必要に応じてこれらを変更します。「既存資産」タスクを使用すると、すべての既存資産の仮定の確認および更新を行うことができます。確認は、主要な既存有形資産、無形資産およびリース資産などの資産のタイプ別に行います。資産の能力、ステータス、保険料率の仮定などの情報を更新できます。さらに、資産を譲渡、改善、除・売却および減損できます。

注：「資産の譲渡」または「資産の除・売却」ビジネス・ルールを起動すると、資産のステータスを変更できます。資産のステータスは直接変更できません。

▶ 既存の主要資産を確認するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

[34 ページの「「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「既存資産」を展開します。

- 3 「既存の主要資産の管理」タスクを選択します。

- 4 「1.01 既存の主要資産の管理」複合フォームを確認します。

「既存の主要資産の管理」マスター詳細フォームでは、上部のフォームには主要資産の詳細が表示されます。下部のフォームには資産支出が表示されます。フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 5 フォームのタブ領域からショートカット・メニューを使用して、資産の計算、資産の減損、資産の譲渡、資産の除・売却、無形資産の計算、計算済詳細の確認、すべてのリース資産の計算、財務諸表への資産の影響の表示を行います。

- [36 ページの「資産の計算](#)」を参照してください
- [36 ページの「資産の減損](#)」を参照してください。
- [37 ページの「資産の譲渡](#)」を参照してください。
- [38 ページの「資産の除・売却](#)」を参照してください。
- [39 ページの「資産の改良](#)」を参照してください。

- 39 ページの「無形資産の計算」を参照してください。
- 40 ページの「計算済の詳細の確認」を参照してください。
- 40 ページの「すべてのリース資産の計算」を参照してください。
- 40 ページの「財務諸表への資産の影響の表示」を参照してください。

資産の計算

「資産の計算」ショートカット・メニューを使用して、個々の資産または資産クラス全体を計算します。このショートカット・メニューを使用すると、1つの資産クラス内の複数の資産に対して変更を行い、それらのすべてを1つの手順で計算できます。このフォームで任意の仮定を変更する場合、「資産の計算」ショートカット・メニューを選択して変更を反映します。その後、「主要資産支出の管理」フォームに結果を表示できます。資産を計算するには「資産の計算」ショートカット・メニューを使用し、すべての資産の資産関連の支出を計算するには「すべて計算」ショートカット・メニューを使用します。

▶ 資産を計算するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

2 「1.01 既存の主要資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「資産の計算」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

3 「資産の計算」ウィンドウで、適用する値を指定または選択します:

- 「資産詳細」 - 計算する資産。

資産クラス内のすべての資産を計算するには、「既存合計」を選択します。これによって、資産クラス内のすべての既存の資産を計算します。「新規合計」を選択すると、すべての新規資産が計算されます。

- 「資産クラス」 - 資産が属するクラス(たとえば、建物、土地、オフィス機器など)。

4 「OK」をクリックします。

資産の減損

市場における資産の価値が貸借対照表に示された価値よりも低い場合、これを減損できます。つまり、提示された市場価格に対して、資産勘定の評価損を計上します。無形資産のみを減損できます。

▶ 資産を減損するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

- 2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「資産の減損」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 「資産の減損」で、減損される資産に適用する値を設定します:

- 「資産クラス」 - 減損する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「資産詳細」 - 減損する資産。
- 「減損日」 - 減損が有効な日付(MM/DD/YY フォーマット)。
- 「公正価額」 - 資産の公正市場価格。
- 「減損オプション」 - オプションを選択します:
 - 「支出」 - 資産価値を費用として落とします。
 - 「資産計上済」 - 資産価値を計上します。資産計上オプションを選択した場合、減損値は資本準備金に転記されます。
 - 「一部資産計上済」 - 資産価値の一部を計上します。「一部資産計上済」を選択すると、減損価額が「資産計上 %」に基づいて資本準備金に配分されます。償却は減損の次の月から低減されます。
- 「資産計上 %」 - 「一部資産計上済」を選択した場合、計上されるパーセンテージを入力します。

- 4 「OK」をクリックします。

資産の譲渡

資産の最適使用を確実にするため、設備マネージャおよびコスト・センター・マネージャが固定資産リソースを部署間で譲渡できます。譲渡をプランするとき、ユーザーがソースおよび宛先エンティティに対してアクセス権を持つことを確認してください。

▶ 資産を譲渡するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
[35 ページの「既存の主要資産の管理」](#)を参照してください。
- 2 有形資産または無形資産を譲渡するかに応じて、「1.01 既存の主要資産の管理」タブまたは「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択します。
- 3 フォームを右クリックして、「資産の譲渡」を選択します。
- 4 「資産の譲渡」で、譲渡される資産に適用する値を設定します:

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 「資産クラス」 - 譲渡する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「ライン・アイテム」 - 譲渡する資産。
- 「異動元」 - 資産の譲渡元のエンティティ。
- 「異動先」 - 資産の譲渡先のエンティティ。
- 「譲渡日」 - 譲渡が有効な日付。日付フォーマットは、アプリケーション設定に基づいて変わります。
- 「理由」 - 譲渡が必要な理由。

5 「OK」をクリックします。

資産が譲渡されると、関連する支出に影響があります。ソースおよび宛先エンティティ内の資産譲渡の影響を表示するには、ライン・アイテムを右クリックして、「計算済の詳細」を選択します。

注： 資産データは、譲渡日後はエンティティ内で保持されません。資産を譲渡したエンティティ内の資産支出を再計算する必要があります。

資産の除・売却

資産が除・売却される時、資産残高は除・売却日に終了し、売り上げの損失または利益または減価償却が計算されます。また、除・売却日後、資産関連の支出は、除・売却した資産に対して計算されません。

▶ 資産を除・売却するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

[35 ページの「既存の主要資産の管理」](#)を参照してください。

2 有形資産または無形資産を除・売却するかに応じて、「1.01 既存の主要資産の管理」タブまたは「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択します。

3 フォームを右クリックして、「資産の除・売却」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

4 「資産の除・売却」で、除・売却される資産に適用する値を設定します:

- 「資産クラス」 - 除・売却する資産が属するクラス(たとえば、土地、建物、オフィス機器など)。
- 「ライン・アイテム」 - 除・売却する特定の資産。
- 「除・売却日」 - 除・売却が有効な日付(MM/DD/YY フォーマット)。
- 「除・売却オプション」 - 次のオプションから選択します:
 - 「売却」 - 資産が売却されました。
 - 「償却」 - 資産が償却されました。
- 「除・売却費用」 - 資産を除・売却する費用。

- 「売却価額または償却」 - 資産の売却額または償却額。

5 「OK」をクリックします。

資産が除・売却されます。ソースおよび宛先エンティティ内の資産の除・売却の影響を表示するには、ライン・アイテムを右クリックして、「計算済の詳細」を選択します。

資産の改良

設備および費用センター・マネージャは資産の改良を計画します(資産のアップグレード、床面積の追加など)。各基本資産へは任意の数の改良を追加できます。

注： 資産を改良する前に、「資産詳細」の「動的な子に対して使用可能」メンバーを選択し、「使用可能な動的な子の数」を指定する必要があります。また、ビジネス・ルールの起動時に動的にメンバーを作成する場合に、ユーザーが持つアクセス権も設定します。Oracle Hyperion Planning Administrator's Guide の動的メンバーに関する項を参照してください。

▶ 資産を改良するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

2 「1.01 既存の主要資産の管理」タブを選択して、動的な子が有効化されている資産を右クリックして、「改良」を選択します。

3 フォーム「資産の改良」で、フォームを右クリックし、「資産の改良」を選択します。

4 資産の改良名、説明、資産単位、資産レート、残存価額、物理的な場所、購入日および使用開始日などの詳細項目を入力します。

5 「OK」をクリックします。

改良名をもつライン・アイテムが当初資産の下に追加されます。

無形資産の計算

「無形資産の計算」ショートカット・メニューでは、組織内の無形資産の支出を計算できます。

▶ 無形資産を計算するには:

1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。

35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。

2 「1.04 既存の主要無形資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「無形資産の計算」を選択します。

3 「無形資産の計算」で、計算する無形資産の「資産クラス」および「資産詳細」を選択し、「OK」をクリックします。

計算済の詳細の確認

この「計算済の詳細」ショートカット・メニューでは、エンティティ・レベルで、指定した既存の資産の全体の支出を確認し、必要に応じて様々な年についてそれらを更新できます。支出は、「ドリル・ダウン-既存の主要資産」フォームで資産別に入力した仮定から計算された結果です。各支出行は、基本費用にパーセンテージを乗算して計算されます。たとえば、修理およびメンテナンスは、基本費用に修理およびメンテナンスのパーセンテージを乗算して算出します。

▶ 計算済の詳細を確認するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 最初の2つのタブの1つを選択し、フォームを右クリックし、「計算済の詳細」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 3 詳細フォームを確認します。

フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

すべてのリース資産の計算

「すべて計算」ショートカット・メニューでは、組織内のすべてのリース資産の支出を計算できます。

▶ すべてのリース資産を計算するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「すべて計算」を選択します。
- 3 CalculateAllLeasedAssets が正常に計算されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

財務諸表への資産の影響の表示

サブトピック

- [キャッシュ・フロー計算書への資産の影響の表示](#)
- [貸借対照表への資産の影響の表示](#)
- [損益計算書への資産の影響の表示](#)

損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書で、資本支出の効果および資本支出の関連アクションを表示できます。同じ資産クラス、すべての資産クラスまたは1つの資産に対して、部署別または部署全体の影響を確認できます。

キャッシュ・フロー計算書への資産の影響の表示

リース資産関連の支出の影響をキャッシュ・フロー計算書で表示できます。

▶ キャッシュ・フロー計算書にリース資産支出の影響を表示するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「キャッシュ・フローの影響」の順に選択します。
- 3 「6.00 キャッシュ・フローの影響 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

貸借対照表への資産の影響の表示

リース資産関連の支出の影響を貸借対照表で表示できます。

▶ 貸借対照表にリース資産支出の影響を表示するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「貸借対照表の影響」の順に選択します。
- 3 「6.10 貸借対照表の影響 - 詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

損益計算書への資産の影響の表示

リース資産関連の支出の影響を損益計算書で表示できます。

▶ 損益計算書にリース資産支出の影響を表示するには:

- 1 「1.06 既存資産の管理」複合フォームを開きます。
35 ページの「既存の主要資産の管理」を参照してください。
- 2 「1.06 既存のリース資産の管理」タブを選択して、フォームを右クリックして、「財務諸表」、「利益と損失の影響」の順に選択します。
- 3 「6.05 利益と損失の影響 - ドリル・スルー」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

既存の副資産の管理

このタスクでは、資産クラス別に集約された副資産のデータをロードできます。

▶ 既存の副資産を確認するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「既存資産」を展開します。
- 3 「既存の副資産の管理」タスクを選択します。
- 4 「1.09 既存の副資産の管理」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。
- 5 「資産の詳細」ショートカット・メニューを選択し、資産の詳細を表示します。
42 ページの「[資産の詳細の表示](#)」を参照してください。

資産の詳細の表示

「資産の詳細」ショートカット・メニューでは、資産のすべての情報を確認できません。貸借対照表への影響と資産に対するすべての支出を表示できます。

▶ 資産の詳細を表示するには:

- 1 「1.09 既存の副資産の管理」フォームを開きます。
41 ページの「[既存の副資産の管理](#)」を参照してください。
- 2 フォームを右クリックして、「資産の詳細」を選択します。
- 3 「5.05 資本支出要約 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

新規資産の追加

サブトピック

- [新規資産の追加および調整](#)
- [新規リース資産の追加および調整](#)

新規資産の追加および調整

「新規資産の追加および調整」タスクでは、プランナは、資産の追加、削除、計算および調整、計算済の詳細の確認、資産の要請ステータスの変更、無形資産の計算、および財務諸表での資産の影響の表示を行えます。

▶ 新規資産を追加および調整するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「新規資産の追加および調整」を選択します。

3 「3.00 新規資産要求」 マスター詳細フォームを確認します。

上部の「3.00 新規資産要求」 マスター詳細フォームに新規資産要求の詳細が表示され、下部のフォームに合計支出の影響が表示されます。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

4 フォームから、ショートカット・メニューを使用して新規資産を管理します。

- [43 ページの「資産の追加」](#) を参照してください。
- [44 ページの「資産の削除」](#) を参照してください。
- [45 ページの「資産の調整」](#) を参照してください。
- [36 ページの「資産の計算」](#) を参照してください。
- [45 ページの「資産の要請ステータスの変更」](#) を参照してください。
- [40 ページの「計算済の詳細の確認」](#) を参照してください。
- [39 ページの「無形資産の計算」](#) を参照してください。
- [40 ページの「財務諸表への資産の影響の表示」](#) を参照してください。

資産の追加

「3.00 新規資産要求」 フォームから有形資産および無形資産を追加できます。資産を追加した後は財務諸表に購入の影響を表示できます。

▶ 資産を追加するには:

1 「資本プランニング」 タスク・リストに移動します。

[34 ページの「「資本プランニング」 タスク・リストの表示」](#) を参照してください。

2 「新規資産の追加および調整」 を選択します。

3 有形資産または無形資産を追加するかに応じて、「新規有形資産要求」 タブまたは「新規無形資産要求」 タブを選択します。

4 フォームを右クリックして、「新資産の追加」 を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

5 「新資産の追加」 から、資産購入に適用する値を設定します:

- 「資産クラス」 - 資産のカテゴリ。
- 「説明」 - 資産の簡単な説明。
- 「資産資本取得要求番号」 - 資本取得要請番号。
- 「優先度」 - 組織での購入の重要度を示すランク。この情報は、要求を満たすかどうかを決定する際に役立ちます。
- 「理由」 - 資産要求の優先度の理由。
- 「残存価額」 - 除・売却時の資産の価値。

- 「能力単位」 - 資産能力の単位(たとえば、ユニットまたは時間など)。単位当たりの資産費用の計算は、このフィールドの値に基づいて行われます。このフィールドの値が不明の場合、空白にすることができます。
- 「購入日」 - 資産を購入する必要がある日付。
- 「使用開始日」 - 資産の使用を開始する日付。減価償却費用は「使用開始日」に基づいています。
- 「保険%」 - 資産の保険の年間レートを指定します。費用は、指定された%を基本費用合計に掛けて算出されます。
- 「メンテナンス%」 - 資産を維持するための年間レートを指定します。費用は、指定された%を基本費用合計に掛けて算出されます。

有形資産ののみ:

- 「資産 ID」 - 資産の ID。
- 「資産単位」 - 資産単位に必要な数。
- 「資産レート」 - 単位ごとの資産の費用。
- 「年あたり FOG 費用」 - 燃料、石油およびガスの支出(年間)。
- 「資産能力」 - 購入済の各ユニットの実際の能力。
- 「修理%」 - 資産を修理するための年間レートを指定します。費用は、指定された%を基本費用合計に掛けて算出されます。
- 「物理的な場所」 - 資産が必要な場所。

無形資産ののみ:

- 「取得費用」 - 資産を取得するための費用。
- 「追加費用」 - 追加の費用。

6 「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、詳細情報が最初の使用可能なライン・アイテムに追加されます。

資産の削除

資産を間違って追加した場合、資産を削除できます。(資産の削除と [38 ページの「資産の除・売却」](#) を比較してください。) 「資産の削除」ショートカット・メニューを使用すると、資産を削除できます。

▶ 資産を削除するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

[34 ページの「資本プランニング」タスク・リストの表示](#) を参照してください。

2 「新規資産の追加および調整」を選択します。

- 3 「新規有形資産要求」または「新規無形資産要求」タブで資産を右クリックして、「資産の削除」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 4 「OK」をクリックします。

資産の調整

このタスクを実行すると、新規資産の要請を実際の資産で調整できます。

▶ 資産を調整するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「新規資産の追加および調整」を選択します。

- 3 「新規有形資産要求」、「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブで資産を右クリックして、「資産の調整」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 4 「資産の調整」から、調整する資産に適用する値を設定します:

- 「新規資産詳細」 - 調整する資産。
- 「調整済資産詳細」 - 調整済の資産。

- 5 「調整」をクリックします。

資産が調整されます。資産が有形資産または無形資産か応じて、調整済資産に関連する支出を「1.01 既存の主要資産の管理」タブまたは「1.06 既存のリース資産の管理」タブで表示できます。

資産の要請ステータスの変更

「資産要請ステータスの変更」ショートカット・メニューでは、資産の要請ステータスを承認済、未承認または保留に変更できます。要求が追加されたとき、資産の要請ステータスは、「新規」に設定されています。要求が承認を得るために送信された後に、承認者は個々の要求のステータスを変更してから、承認プロセスでプランを上位へ移動する必要があります。

▶ 資産の要請ステータスを変更するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「新規資産の追加および調整」を選択します。

- 3 「新規有形資産要求」タブで資産を右クリックして、「資産要請ステータスの変更」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 4 「資産要請ステータスの変更」から、変更する要請ステータスを持つ資産に適用する値を設定します：
 - 「資産クラス」 - 変更する要請ステータスを持つ装置のタイプ。
 - 「資産詳細」 - 変更する要請ステータスを持つ要請ライン・アイテム。
 - 「ステータスの入力」 - 次のオプションから選択します：
 - 「承認済」 - 要請が次の段階に移行する承認を得ています。
 - 「未承認」 - 要請が拒否されたか、承認されていません。
 - 「保留」 - 要請が延期されたか、保留にする必要があります。
- 5 「OK」をクリックします。

新規リース資産の追加および調整

このタスクを実行すると、実際のリースに対して新規リース資産の要請を調整できます。

▶ 新規リース資産を追加および調整するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「新規資産の追加および調整」タスクを選択します。

- 3 「新規リース資産要求」タブを選択します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

- 4 「新規リース資産要求」フォームから、リース資産を追加、削除、計算および調整できます。すべての計算、計算済詳細の確認、財務諸表でのリース資産の影響の表示を行えます。

- 47 ページの「[リース資産の追加](#)」を参照してください。
- 48 ページの「[リース資産の削除](#)」を参照してください
- 49 ページの「[リース資産の計算](#)」を参照してください
- 40 ページの「[すべてのリース資産の計算](#)」を参照してください
- 45 ページの「[資産の調整](#)」を参照してください
- 40 ページの「[計算済の詳細の確認](#)」を参照してください
- 40 ページの「[財務諸表への資産の影響の表示](#)」を参照してください

リース資産の追加

「新規リース資産の追加」ショートカット・メニューでは、リース資産を追加できません。

2つのタイプのリース:

- オペレーティング・リース - 賃貸契約と同様、オペレーティング・リースは短期間用です。賃貸人は、所有権のリスクの負担とメリットがあり、一般的に、資産のメンテナンス、保険および修理費用を負担します。
- 資産計上済リース - 資産の耐用年数のほぼ全期間で継続するリースで、リース期間終了後、資産の価値がなくなります。リースでは、メンテナンス、修理、保険および老朽化を含め、所有権のすべてのリスクとメリットを見積もります。賃貸人の主な役割は、資産に対して資金を提供することです。終了時に、資産は、通常、指定金額を支払った賃借人に譲渡されます。これは、分割払いで資産を購入する場合と同じです。

オペレーティング・リースか資産計上済リースかを分類する際に、Capital Asset Planning が適用する基準は次のとおりです:

- リース期間終了時の所有権の譲渡
- リース期間中の特定日に廉価(想定される資産の市場価格よりも安い価格)での購入オプション
- リース期間が資産の耐用年数の大部分を占める(資産の耐用年数耐用年数の少なくとも75%)
- リース支払額の現在価値が資産の初期価格の90%を超える

財務諸表へのリースのタイプの影響:

- オペレーティング・リース - これらのリース支払額は、損益計算書上で営業経費(賃貸支出)として記録されます。
- 資産計上済リース:
 - 貸借対照表に資産および負債を記録し、装置の価値およびそれぞれのリース支払額の債務(負債)を反映します
 - 資産をその耐用年数の期間に減価償却します。これは、貸借対照表上で資産の価値を減らし、損益計算書上に減価償却の支出を発生させます
 - リース関連の利率は、損益計算書上で支出として示す必要があります(帰属利子の支払い)

▶ リース資産を追加するには:

1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「新規資産の追加および調整」を選択します。

3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択し、右クリックして、「新規リース資産の追加」を選択します。

注： 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

4 「新規リース資産の追加」から、エンティティに適用する値を設定します：

- 「資産クラス」 - 新規リース装置が属する資産クラス。
- 「ID」 - 新規リース装置の ID。
- 「説明」 - 資産の簡単な説明。
- 「資産単位」 - リースするユニットの数。
- 「資産能力」 - リース資産の能力。
- 「能力単位」 - リース資産能力の単位。単位当たりの資産費用の計算は、このフィールドの値に基づいて行われます。このフィールドの値が不明の場合、空白にすることができます。
- 「理由」 - リース資産要求の理由。
- 「優先度」 - 資産要求の優先度。これは、承認プロセスの確認に役立ちます。
- 「リース日」 - リースを開始する日付。
- 「リース期間(年)」 - 年単位のリース期間。
- 「頭金」 - リース資産に対する頭金。
- 「リース支払」 - リース資産に対する支払金額。
- 「支払い頻度」 - 支払いの頻度。
- 「支払時期」 - リース支払を行う必要がある時期(期間の開始時または終了時)。
- 「暗黙的利率」 - リースの利率。
- 「リース期間後の所有者」 - リースが終了するときの装置の所有者。
- 「リース開始時の資産価値」 - リース開始時の価値。
- 「リース開始時の資産寿命(年)」 - リース開始時の資産の寿命(年単位)。
- 「リース終了時の購入価格」 - リース終了時の購入価格。
- 「中古市場価格(残存価額)」 - リース資産の想定される残存価額。

5 「リース資産の追加」をクリックします。

リース資産を追加すると、Capital Asset Planning により、入力したパラメータに基づいてリース・タイプ(オペレーティング・リースまたは資産計上済リース)が自動的に選択されます。リース資産を追加した後、「新規リース資産の詳細」フォームでリース・タイプを変更できます。資産パラメータを後で変更する場合は、該当する場合、リース・タイプも変更する必要があります。

リース資産の削除

「リース資産の削除」ショートカット・メニューでは、リース資産を削除できます。

▶ リース資産を削除するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「新規資産の追加および調整」を選択します。
- 3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択します。
- 4 リース資産を右クリックし、「リース資産の削除」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 5 「OK」をクリックします。

リース資産の計算

「リースの計算」ショートカット・メニューを実行すると、リース資産の計算および財務諸表にリース資産の更新済影響の表示を行うことができます。資産計上済リースは損益計算書と貸借対照表に影響を与えますが、オペレーティング・リースは損益計算書のみに影響を与えます。

▶ リース資産を計算するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。
- 2 「新規資産の追加および調整」を選択します。
- 3 「新規リース資産要求」または「新規リース資産の詳細」タブを選択します。
- 4 フォームを右クリックして、「リースの計算」を選択します。

注: 表示されるショートカット・メニューは、フォーム設定およびフォーム内で右クリックする場所に応じて異なります。

- 5 CalculateLeasedAsset が正常に実行されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

資産関連支出の計算

「資産関連支出の計算」タスクを使用すると、組織の資産関連の支出を計算できます。資産関連の支出には、メンテナンス、保険、減価償却または償却などの勘定科目が含まれます。

▶ 資産関連の支出を計算するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。
34 ページの「[「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

- 2 「資産関連支出の計算」タスクを選択します。
- 3 資産関連支出の計算ビジネス・ルールを実行するには、「起動」をクリックします。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

承認のためのプランの送信

企業プランナ、資産マネージャまたは費用センター・マネージャは、複数のシナリオを利用しながら資本資産支出プランを作成します。彼らは、確認と承認のために上位のマネージャにそれらを送信します。企業プランナは、通常、プランを統合し、資本支出に関するレポートを準備します。企業は変動する状況に対応するために、必要に応じて、プランを変更します。

▶ 承認のために資本支出プランを送信するには:

- 1 「資本プランニング」タスク・リストに移動します。

[34 ページの「資本プランニング」タスク・リストの表示](#)を参照してください。

- 2 「承認のためにプランを送信」タスクを選択します。
- 3 Oracle Hyperion Planning の承認機能を使用して、承認のためにプランを送信します。

Oracle Hyperion Planning User's Guide の第 10 章「プランニング・ユニットの管理」を参照してください。

注： プランニング・ユニットを上位へ移動した後、その新しい所有者は書き込めますが(所有者に書込みアクセス権があると仮定した場合)、プランニング・ユニットに書込みできなくなります。

5

資本資産分析の実行

この章の内容

情報	51
プロセス	51
「資本分析」タスク・リストのタスク	51
「資本分析」タスク・リストの表示	52
財務諸表での影響の確認	52
資産の詳細の表示	53
資産概要の表示	53

情報

資本資産分析は、管理者が資本資産の確認および資本要求の管理を行う際に役立ちます。Capital Asset Planning の外部の詳細な資産管理を実行する場合、情報をインポートできます。

資産要件を分析すると、資産マネージャは、エンティティ別にすべての資産の詳細にアクセスできます。資産が必要だが使用できる資産がない場合、資産マネージャは部署間での資産の購入、リースまたは譲渡を要求できます。資産の支出および可用性を分析すると、マネージャは資産の使用状況について適切に判断できます。

プロセス

資産、資産マネージャの要件を管理するには:

- 資本資産の要件をエンティティ別に確認します
- 使用可能な資本資産およびそれに関連する支出を確認します
- 組織の要件に基づいて、オペレーショナル・リースまたはキャピタル・リースで新規資産またはリース装置を購入するかどうかを決定します。
- キャッシュ・フロー、貸借対照表および利益と損失に基づいて、新規リース資産の支出を計算し、必要に応じてそれらを要求します。

「資本分析」タスク・リストのタスク

1. 財務諸表で影響を確認します。

52 ページの「財務諸表での影響の確認」を参照してください。

2. 資産概要を表示します。

53 ページの「[資産概要の表示](#)」を参照してください。

「資本分析」タスク・リストの表示


▶ 「資本分析」タスク・リストを表示するには:

1 **Capital Asset Planning** を起動します。

25 ページの「[Capital Asset Planning へのログオンおよびアクセス](#)」を参照してください。

2 左側のパネルで、「自分のタスク・リスト」を展開します。

3 「資本分析」を展開します。

4 タスク・リストからタスクを起動するには、「アクション」列の下のタスクの右にある「タスク・リスト・ウィザードの起動」 をクリックします。

財務諸表での影響の確認

資本支出および関連アクションの影響を確認すると、利益と損失、貸借対照表およびキャッシュ・フローに効果が表示されます。1つの資産クラス、すべての資産クラスまたは1つの資産に対して、部署別または部署全体の財務上の影響を確認できます。

▶ 財務諸表に資産支出の影響を表示するには:

1 「資本分析」タスク・リストの下で、「財務諸表への影響の確認」を起動します。

52 ページの「[「資本分析」タスク・リストの表示](#)」を参照してください。

2 「財務諸表への資本の影響」複合フォームに入力します。

フォーム要素の定義は、[用語集](#)を参照してください。

注： 財務諸表への新規リース資産の追加の影響を表示するには、「ツール」、「ビジネス・ルール」、「資本管理からのロール・アップ」の順に選択して、すべてのデータを集計します。たとえば、複数の新規リース資産を追加したが、その財務に与える影響が、「財務諸表への影響の確認」フォームにリストされていない場合、このビジネス・ルールを実行します。

3 「キャッシュ・フローの影響」フォームからショートカット・メニューを使用すると、資産の詳細を表示できます。

53 ページの「[資産の詳細の表示](#)」を参照してください。

資産の詳細の表示

このタスクを実行すると、資産についての資本支出の詳細を表示し、新規資産支出要求を確認できます。

▶ 資産の詳細を表示するには:

- 1 「財務諸表への資本の影響」複合フォームを開きます。
52 ページの「財務諸表での影響の確認」を参照してください。
- 2 「キャッシュ・フローの影響」フォームを右クリックして、「資産の詳細」を選択します。
- 3 「5.05 資本支出要約 - ライン・アイテムの詳細」フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

注: ショートカット・メニューを使用すると、前のフォームに戻ることができません。

資産概要の表示

「資産概要」タスクを実行すると、資産がどの程度稼働しているかを表示できます:

- 「資本支出」には、カテゴリ別のその年の資本支出の比率が表示されます(たとえば、建物が合計資本支出の 73%を占めています)。詳細情報については、各カテゴリにドリル・ダウンできます。
- 「キャッシュ・アウトフロー」には、資本の追加によるキャッシュ・アウトフローが表示されます。
- 「資産の使用状況」には、エンティティ内のすべての資産の期間別の資産単位および資本支出が表示されます。

▶ 資産の概要を表示するには:

- 1 「資本分析」タスク・リストの下で、「資産概要」を起動します。
52 ページの「「資本分析」タスク・リストの表示」を参照してください。
- 2 「資産概要」複合フォームを確認します。
フォーム要素の定義は、用語集を参照してください。

用語集

勘定科目 資本資産のプランニングをサポートする次元。

配賦ベース 諸経費支出の計算方法を決定します。

償却方法 一定期間(通常は資産の耐用年数)における無形資本支出の控除額。具体的には、この方法では、特許や著作権などの無形資産の価値の消費を測定します。

資産詳細 新規資産(新規リースまたは新規所有のいずれか)を詳述するために使用される次元。企業が複数の資産タイプを所有し、その資産に対して明確にプランする必要がある場合、既存資産を説明するために、この次元を使用することもできます。

資産クラス 企業が所有する資産の様々なカテゴリを表す次元。

資本プランニング 資本支出のプランニング、管理および優先付け。

CAPM (資本資産価格設定モデル) 資産がすでに明確に定義されて多様な資産のポートフォリオに追加されている場合、資産に対して必要で適切な利益の比率を決定するためのリスクと予想される利益の間の関係を説明するモデル。このモデルは、業界内の資産のシステムティック・リスクや市場リスクを考慮します。

キャッシュ・フロー発生 キャッシュ・フローがキャッシュ・フロー計算書にどのように影響するかを決定します。キャッシュ・フロー計算書に影響を及ぼす係数には、資金のソース(収益)と資金の使用(支出)の2つがあります。

借入費用 事業の経営において、事業が配置する資金に支払われる利率。

負債比率 企業がその資産に関連する負債の比率を示します。

減価償却 耐用年数の間、有形資産の費用を配布する方法。Oracle Hyperion Capital Asset Planning では、資産の減価償却方法として、定額減価償却(SLN)、級数法(SYD)、および定率(DB)をサポートしています。

割引率 金融市場での投資によって得られる利益の比率で、同様にリスクも伴います。

直接割引率方式 指定する割引率が有効な割引率になります。

割引係数 将来のキャッシュ・フローの値を現在の値に割り引くのに使用されます。

DB (定率) 定率は、資産の耐用年数の最初に固定資産の費用の大部分が支出とされる、減価償却を計算するための加速された方法です。定率の減価償却を計算するには、固定資産の減価償却可能基礎価額に係数を乗算します。減価償却可能基礎価額は、固定資産の帳簿価額から減価償却累計額を減算します。係数は、アクセラレータによって乗算された、定額減価償却で毎年減価償却される資産の割合です。

DB 年および DB 期間 資産が定率方式を使用して減価償却される各年または期間には、異なる減価償却可能基礎価額があります。DB 年および DB 期間は、指定した年または期間の減価償却可能基礎価額での資産の値です。

有効な割引率 将来のキャッシュ・フローの現在の値を決定するために、割り引かれたキャッシュ・フロー分析で使用される利率。計算できます。

エンティティ 組織、部署または事業部門を表す次元。

設備配賦 保守および賃貸など、提供される設備に関連する費用。

確定償却方法 償却方法。確定耐用年数を持つ無形資産は耐用年数の間、償却され、減損が必要と示される場合は、減損のためにテストされます。

年当たり FOG 費用 燃料、石油およびガスの費用で、装置の動作に必要な支出です。

グローバル・レート 費用を算出する様々な計算で使われる、上位レベルで設定される仮定レート。

損益計算書 収益と支出を要約して、会計期間を通じた企業の財務実績を測定します。会計期間(通常は会計四半期または会計年度)で発生した純利益または純損失も示します。主要な3つの財務諸表は、損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フローです。

不確定償却方法 償却方法。不確定に償却される無形資産は、体系的に償却されるのではなく、営業権と同じ方法で減損のためにテストされます。耐用年数が不確定であることの決定は、毎年見直され、不確定のままにするかどうかを確認されます。かわりに確定である場合は、償却が開始します。

間接費プール 2つ以上の目標で特定されるが最終的な費用目標で明確に特定されない発生費用の論理グループです。

情報システム諸経費 インターネット・サービス・プロバイダ料金など、コンピュータ・システムに関連する費用。

無形資産 非物理的資産。企業の知的財産(特許、商標、著作権、ビジネス方法論などのアイテム)、営業権、およびブランド認知は、すべて共通の無形資産です。

製造諸経費 通常、装置の保守と減価償却、品質管理、および作業現場監督を含む製造費用。

市場リスク割増額 市場ポートフォリオで予想される利益と無リスク率との差異。市場リスク割増額は、証券市場線(SML)、資本資産価格設定モデルの傾きと等しくなります。

中期 減価償却または償却の計算で使用されると、中間期間は耐用年数の最初の月と最後の月の期間を意味します。資産が月の中旬にサービスに配置されるとすると、減価償却可能な金額は通常の月の値の50%になります。

純利益 収益から費用を差し引いた金額です(設備支出など)。

純収益 総利益から、すべての負債と間接費を減算します。純利益とも呼ばれます。

NPV(正味現在価値) 投資がどの程度の値を組織に追加するかを示すインディケーター。これは、現在の値に割り引かれた、年間のすべての正味キャッシュ・フローの合計として計算されます。

回収期間 投資で収支が合うまでにかかる時間。

収益キャッシュ・フロー発生 収益からの現金の収集方法、つまり顧客による支払方法(事前、同月、翌月など)を示します。2か月前、1か月前、同月、翌月、2か月後、3か月後、4か月後から選択できます。

ここでの選択内容は、キャッシュ・フロー計算書に直接影響を及ぼします。同月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、同じ期間の契約収益の金額に、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。翌月を選択した場合、キャッシュ・フロー計算書には、1か月遅れで、顧客からのキャッシュ・インフローが表示されます。同様に、2か月後を選択すると、2か月遅れになります。

収益促進要因 プランされた収益は原価加算、実費清算または単価に基づいて指定できます。

収益認識 収益が認識されるタイミングを示します。月次(デフォルト)、四半期ごと、半期ごと、完了後、請求時から選択できます。

デフォルトは月次で、この場合、作業が実行された月に収益が認識されます。四半期ごとを選択した場合、アプリケーションの会計カレンダーに基づいて、各四半期の最終月に収益が認識されます。半期ごとを選択した場合、アプリケーションの会計カレンダーの6か月目と12か月目に収益が認識されます。完了後を選択した場合、契約の最終月の後で収益が認識されます。マイルストーンに到達したときのみ収益を認識できる場合、または事前定義済のタイム・フレームがない場合は、請求時を選択します。

無リスク率 無リスク率は、事業が投資に対して予想する最小の利益です。

ROI(投資利益率) 投資の効率を評価したり、複数の異なる投資の効率を比較するために使用される、パフォーマンス・メジャー。ROIを計算するには、投資の利益(リターン)は投資の費用で分割され、結果はパーセンテージまたは比率で表されます。

SLN(定額減価償却) 資産クラスの減価償却方法で、耐用年数の間、資産の費用を均等に分割します。

スプレッド・ロジック グリッド内で値を分散する方法を決定するロジック:xrefまたはxref。

SYD(級数法) 耐用年数の間、資産の費用を配布する減価償却方法。各年を計算するには小数が必要で、これは減価償却可能な金額に対して適用されます。

税率 指定した期間に税金が支払われる割合。

耐用年数 資産または財産が買収された目的で使用可能になる期間。

索引

A - Z

ActVersion 代替変数, 23
 Capital Asset Planning アプリケーションの初期化, 19
 Performance Management Architect アプリケーションの管理の使用, 20
 Planning アプリケーション管理の使用, 21
 Capital Asset Planning について, 9
 Capital Asset Planning のアップグレード, 11
 Capital Asset Planning のアーティファクト, 12
 Capital Asset Planning のインストール, 22
 Capital Asset Planning の要素, 12
 CAPM、定義, 55
 CurScenario 代替変数, 23
 CurVersion 代替変数, 23
 CurYr 代替変数, 23
 DB 期間、定義, 55
 DB、定義, 55
 DB 年、定義, 55
 ForVersion 代替変数, 23
 LastYr 代替変数, 22
 NextYear 代替変数, 23
 NPV
 定義, 56
 Performance Management Architect
 アクセス, 25
 アプリケーションの作成, 20
 Performance Management Architect アプリケーションの配置, 21
 PlanVersion 代替変数, 23
 ROI
 定義, 56
 RollupCapexCube ビジネス・ルール, 30
 SLN、定義, 56
 SYD、定義, 56
 ThisMonth 代替変数, 23
 Thisyear 代替変数, 23
 Workspace の URL, 25

Workspace、ログオン, 25

実行

アクセス
 Performance Management Architect, 25
 Planning, 25
 Workspace, 25
 アクセス権、設定, 23
 アプリケーション
 Performance Management Architect アプリケーションの作成, 20
 Planning アプリケーション管理を使用して作成, 21
 作成、概要, 19
 実装タスク, 22
 選択, 26
 インポート。「ロード」を参照
 エンティティ次元
 アクセス権の設定, 24
 エンティティのロード, 22
 定義, 55
 「エンティティなし」メンバー, 24
 オペレーティング・リース、説明, 47

実行

回収期間、定義, 56
 確定償却方法、定義, 55
 カスタマイズ
 勘定科目, 11
 期間, 9
 フォーム, 12
 借入費用、定義, 55
 カレンダー
 サポート, 34
 説明, 9
 勘定科目次元
 アクセス権の設定, 24
 概要, 11

- 定義, 55
 - 間接費
 - プール、定義, 56
 - 管理
 - 資本資産, 27
 - 資本資産、情報, 27
 - 期間
 - カスタム, 9
 - 説明, 9
 - 期間次元, 20
 - 既存資産
 - 主要資産の確認, 35
 - 副資産の確認, 41
 - ロード済減価償却および償却の確認, 31
 - キャッシュ・フロー
 - 資産の影響の表示, 41
 - 資本支出の影響の表示, 52
 - キャッシュ・フロー発生
 - 仮定の設定, 29
 - スマート・リスト, 15
 - 定義, 55
 - 級数法、定義, 56
 - グローバル・レート
 - 資本資産の設定, 29
 - 定義, 56
 - 減価償却
 - 仮定の設定, 29
 - サポートされている方法, 34
 - 定義, 55
 - 減価償却換算、仮定の設定, 29
- さ行**
- 削除
 - 資産, 44
 - リース資産, 48
 - 作成
 - Performance Management Architect アプリケーション, 20
 - Planning アプリケーション管理を使用するアプリケーション, 21
 - 財務諸表、影響の確認, 52
 - 残存価額
 - 設定に関するアドバイス, 34
 - 入力, 43
 - 資金調達オプション、仮定の設定, 29
 - 資産
 - 改良, 39
 - 関連支出の計算, 31
 - 既存に関するロード済減価償却および償却の確認, 31
 - 既存の副資産の管理, 41
 - 計算, 36
 - 資産クラス、定義, 55
 - 資産詳細、定義, 55
 - 主要既存の確認, 35
 - ステータスの変更, 35
 - 調整, 45
 - 追加, 43
 - プランニング, 33
 - 要求, 43
 - 要請ステータスの変更, 45
 - リースの計算, 49
 - 資産 ID、設定, 44
 - 資産関連支出
 - 仮定促進要因, 29
 - キャッシュ・フロー計算書への影響, 41
 - 計算, 31, 49
 - 貸借対照表の影響, 41
 - 利益および損失の影響, 41
 - 資産クラス
 - 定義, 55
 - 資産クラス次元
 - アクセス権の設定, 24
 - 概要, 11
 - 計算, 36
 - 設定について, 29
 - 資産計上済リース、説明, 47
 - 資産詳細次元
 - 概要, 11
 - 更新, 30
 - 設定について, 29
 - 定義, 55
 - 表示, 42, 53
 - 資産の改良, 39
 - 「資産の計算」ビジネス・ルール, 36
 - 資産の減損, 36
 - 資産の譲渡, 37
 - 資産の除・売却, 38
 - 支出 vs 資産計上減損, 36
 - 市場リスク割増額、定義, 56
 - シナリオ次元
 - アクセス権の設定, 24
 - 代替変数の設定, 23
 - 「資本管理」タスク・リスト

タスク, 28
 表示, 28
 資本資産, 33。「資産」も参照
 インポート, 30
 仮定の設定, 29
 管理について, 27
 減損, 36
 削除, 44
 支出の連結, 30
 譲渡, 37
 除・売却, 38
 総支出のレビュー, 40
 分析について, 51
 分析プロセス, 51
 プランニング, 33
 プランニング・プロセス, 33
 プロセスの管理, 27
 リース資産のすべての支出の計算, 40
 資本資産価格設定モデル、定義, 55
 資本資産の管理、情報, 27
 資本取得要求番号、入力, 43
 資本に関する仮定の設定タスク, 29
 「資本分析」タスク・リスト
 タスク, 51
 表示, 52
 資本プランニング
 考慮事項, 34
 定義, 55
 「資本プランニング」タスク・リスト
 タスク, 34
 表示, 34
 収益キャッシュ・フロー発生、定義, 56
 収益促進要因、定義, 56
 収益認識
 定義, 56
 修復費用
 仮定の設定, 29
 指定, 44
 リース資産, 47
 取得費用、指定, 44
 主要資産、仮定の更新, 35
 償却方法
 仮定の設定, 29
 定義, 55
 承認、資本資産プランの送信, 50
 承認のためのプランの送信, 50
 正味現在価値、定義, 56

ショートカット・メニュー
 概要, 13
 削除, 13
 使用開始日
 減価償却の計算, 43
 設定, 43
 次元
 およびスマート・リスト, 13
 事前定義済、概要, 11
 ロード, 22
 次元メンバー名, 20
 事前定義済アーティファクト, 12
 実装タスク, 22
 純収益
 定義, 56
 純利益、定義, 56
 情報システム諸経費、定義, 56
 スプレッド・ロジック、定義, 56
 スマート・リスト
 および勘定科目, 11
 およびビジネス・ルール, 13
 事前定義済, 13
 ずらして配置されたキャッシュ・フロー発生
 仮定の設定, 29
 スマート・リスト, 15
 製造諸経費、定義, 56
 設備配賦、定義, 55
 税率
 仮定の設定, 29
 定義, 56
 前提条件, 10
 装置, 11。「資産」も参照
 使用状況について, 53
 使用費用, 29
 請求レート、計算への影響, 29
 ユニット、計算への影響, 29
 要請、含まれるライン・アイテム, 11
 損益計算書
 影響、リース支払, 47
 定義, 56
 損益計算書、影響の表示, 41

た行

貸借対照表
 効果、資産計上済リース, 47
 資産の影響の表示, 41
 耐用年数

仮定の設定, 29
 定義, 56
 リース期間, 47
 タスク・リスト
 概要, 13
 資本管理, 28
 資本分析, 51
 資本プランニング, 34
 代替変数、設定, 22
 中期、定義, 56
 調整
 新規資産, 45
 新規リース資産, 46
 直接割引率方式、定義, 55
 定額減価償却、定義, 56
 定率、定義, 55
 データ
 ロード, 22
 ロードの概要, 25
 データのロード
 Data Integration Management Adapter for
 Planning を使用, 25
 概要, 25
 投資利益率、定義, 56
 年当たり FOG 費用
 設定, 44
 定義, 55
 年次元, 20
 年、複数をサポート, 9
 動的な子, 39

な行

能力単位、設定, 43

は行

配賦ベース、定義, 55
 バージョン次元
 アクセス権の設定, 24
 代替変数の設定, 23
 標準レート、装置, 29
 ビジネス・モデル, 10
 ビジネス・ルール
 RollupCapexCube, 30
 概要, 12
 更新, 11
 資産の計算, 36
 フォーム

オープン不可, 23
 概要, 12
 不確定償却方法、定義, 56
 副資産、仮定の更新, 41
 複数通貨アプリケーション, 34
 負債比率、定義, 55
 保険費用
 グローバル仮定, 29
 指定, 44
 リース資産, 47

ま行

右クリック・メニュー、概要, 13
 無形資産
 仮定の更新, 35
 計算, 39
 減損, 36
 追加, 43
 定義, 56
 無リスク率、定義, 56
 メタデータ
 設定, 22
 ロード、概要, 25
 メニュー。「ショートカット・メニュー」を参照
 メンテナンス費用
 仮定の設定, 29
 指定, 44
 リース資産, 47
 メンバー式、更新, 11

や行

有形資産
 仮定の更新, 35
 追加, 43
 有効な割引率、定義, 55
 ユーザー・グループ, 23
 ユーザーの役割, 23
 ユーザー変数、設定, 23
 要請ステータス、変更, 45

ら行

リース資産
 仮定の更新, 35
 計算, 49
 削除, 48

すべての支出の計算, 40

説明, 47

調整, 46

追加, 47

リース・タイプ、変更, 48

ログオン

Capital Asset Planning, 25

Workspace、Performance Management

Architect および Planning へ, 25

ロード済減価償却および償却の確認フォーム,

31

わ行

割引係数

定義, 55

割引率

定義, 55

A-Z あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行 わ行